

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak  
LICENSED PRODUCT

3/Color

White

Magenta

Red

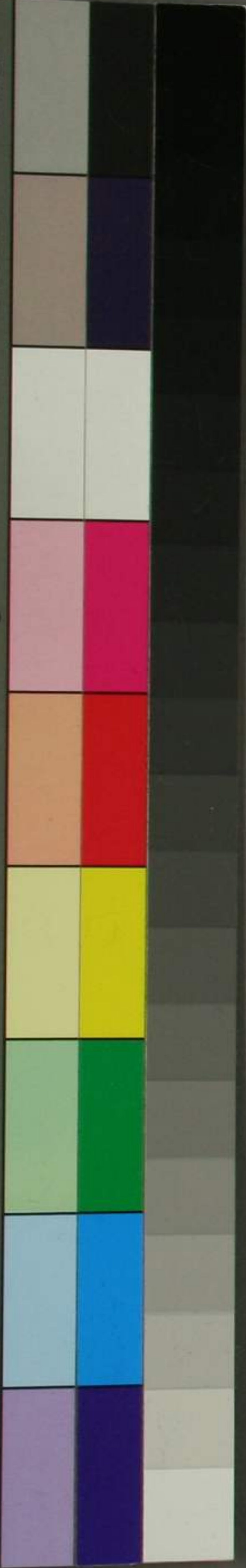
Yellow

Green

Cyan

Blue

Black



岩手  
 さくら  
 ねん  
 見ささ  
 いま  
 うき世の  
 嵯峨の  
 百八  
 六

特  
 へ遠13  
 965  
 6止



門遠  
號 965  
卷 6 止

本精

三  
山  
三

難能得の伏見巻之六

右門遠阿梅就子

左門討慈助

浪花佐者

世中小う其縁をときくくふあもあもさ茶花  
言してたりぬる信た浅間村表を治り娘  
去梅の皇脚が信書をさうゆ人と皇者をすこふ入  
河内必礼の姿とありゆるまき一古名をたあれま者  
強より上ぐささして出なる観世者の御利益を  
あかぎ送縁あう養流のまよりけり谷汲あり  
近江の親者も長命の竹を信りまう教ふ御  
大和河内津の玉の人立多きちを信りて世を

三  
山  
三

道うらう又もや教ふ立所り石 ちくとも神位を  
神位をあらあら人小逢しして我牙の上を仰まの  
海を空合せうが大佛夜の西堂の内小塔く休  
病る小毛亦小なる男お梅をほくくとしてかみ  
若き牙のおさあ子つまて一人旅の必礼相く奇持  
あるりありいれある伏せ出さるやとひきり小  
お梅をうていりやう我ハ信濃の玉の若かり走公年  
家業のくあ小肉を出月口をとも神り出ん若信も  
あきとまへえ西堂の生身ある等上方おやおきんと  
必礼とんきーあきあ子つまてむのむるく年のは  
つ

ちくあやで名白かやさ男名ハ重脚とちまのちま  
あかへおあしくてくと杉とくお彼男必も若人  
我妻伏せの者進ごうはあの進所ハ信濃よりあ  
若者ありやうやを男でもあまのくおみへ  
あてえんまきうと儀くやふかんとあおあるこひ  
彼老ふあさうひ伏せの里小ありうけ若ハ氏孫が  
家来然脚之同玉の二九節と名をうまこ人の行を  
あて難後あり上方あを移くの悪行あん若りりか  
大佛あはあお出合ん月の上をまへおれく伏せん書  
波のたえんつまきあ 勅書云小童んとお讀あうりる

お梅はきりくちあまの室の如女町より彼男をたたり  
身を賣さるゝのこゝろとありてまゝに  
家内ものの者もの小中ちゅうに夜よにそふお梅の子こつきて  
船場ふねばたより船ふねのり大坂おさかへ送り  
室むろの徳とく人の入いりりお梅の夫おとこを  
先ま天てんを尋たずふ糸いと糸いとりかか  
毛け身みの過あやまし小こ僧そうの体てい  
おとあ付つ神かみをかみしかみも居ゐる  
親おや子こを尋たずふと倍ばい流りゅうより  
良よ大だい和わ河か内ないを尋たずふ  
合あ邦はうの合あ邦はうは過あま  
御ご合あ方はうと神かみをかみする  
子こえ堀ほりづきづきる  
む信しん見み浅あさ方はう村むら松まつ平へい治ち孫まご重ちゆう吉きちと  
よあまびしをあら母ははのつつく  
五ご出しゅのあまあまと回まわる  
鏡かがみを森もり平へい治ち孫まごあま  
つき我われも年としごごろ  
中ちゆうの事ことの子こ細こまを  
方はうへあまあまとと  
一いち張ぢやうの

の方はうへあまあまとと合あ邦はうの合あ邦はうは過あま  
御ご合あ方はうと神かみをかみする  
子こえ堀ほりづきづきる  
む信しん見み浅あさ方はう村むら松まつ平へい治ち孫まご重ちゆう吉きちと  
よあまびしをあら母ははのつつく  
五ご出しゅのあまあまと回まわる  
鏡かがみを森もり平へい治ち孫まごあま  
つき我われも年としごごろ  
中ちゆうの事ことの子こ細こまを  
方はうへあまあまとと  
一いち張ぢやうの



明人長園画

大坂  
八ヶ  
やん

おむめ



くま

左門

おめ  
おむめ  
うら

今釣八軒屋と云ふ所の事よし此の重く相もむめまを  
来りぬと三人おのまは八軒屋の宿屋小東りむ  
有る座敷小入たは梅小打向ひ必死く事あり  
そあるなる重脚をそやは世不わねぞときくあり  
親事と云ふ事なりと人ありまの死く事なり  
づくと云ふ事ありとあるく涙小なる事なり  
岩國の重脚といひく世上を去る夜の名儀ハ紙  
久保田の家臣鈴木民弥と云ふ者毎箇官をまといあり  
小父を討きて其仇をむくんと云ふ事ありと堪能  
松平治の世に不あり家業小出るといひも云ふあり

新治ありと款不出合二夜川先飛人と成て既し  
比良素練の官をまた大勢の事なりとありと園村家  
民弥も遠くお果る事あり清井左門と云ふ民弥がゆを  
の老後をそてり妙なき事ありとありと遠親も不款を討て  
往末の家を去る事ありとありと淡宮村より去る事あり  
ある事ありと一と名ありとありとありとありとありとあり  
女子たむ事ありとありとありとありとありとありとありとあり  
やう方おくまの事ありとありとありとありとありとありとありとあり  
しと不事ありとありとありとありとありとありとありとありとあり



拾遺しゆいとて古抄こせうに子不しよふ考こう武蔵ぶさうを考こうふ

素山すさん大内だいない密談みつだん 秋津あきつ鴉あや小本こほん聖せい来らい徒た

世よの後ご不ふ捨すてる神かみも六む拾しゆの神かみありと大内だいない平へいをたふ  
才さい三さん節せつ之し流りゅう江え中ちゆうを考こう文ぶん二に人にん任にん勢せいの津つを返かへ拂はらを  
後ご不ふ考こうる素山すさん外がい記きが世せ活かつを紐ひも術じゆつの拾遺しゆい考こうふ  
家か中ちゆうの元げんより後ご伏ふく見みの所ところ人にん百ひやく姓せいまで入い門もんして考こうふ  
船ふね冒ぼうしより考こうる大内だいない素山すさん不ふ誤ごト考こうる意い考こうる所ところ  
中ちゆう再さい我われ致いた来き民たみ強かうへ反はん討たう不ふ考こうる意い考こうる所ところ後ご井い左さ門もん  
我われを祈いのる意い考こうる水みづ考こうる肉にく通と考こうる考こうる意い考こうる所ところ水みづ考こうる  
五ご逆ぎやく一いつ考こうる行ゆき時ときも中ちゆう外がい考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ

我われも考こうる事こと不ふ必ひつ証しやうセリ左門さもんの客きやく易いの者もの不ふ考こうる意い考こうる所ところ  
持もち考こうる所ところ画え象しやうの任にん指し考こうる意い考こうる所ところ去さ不ふ考こうる意い考こうる所ところの主人しゆじん  
不ふ考こうる意い考こうる所ところ家か人にん不ふ考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ  
出来でき考こうる意い考こうる所ところ素山すさん外がい記きが世せ活かつを紐ひも術じゆつの拾遺しゆい考こうふ  
之こ小こ仕し居い身みの彼か地ち考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ  
屋い急きゆう考こうる意い考こうる所ところ飛と御ごを立たり考こうる意い考こうる所ところ大内だいない太たい不ふ考こうる意い考こうる所ところ  
急きゆう角かく考こうる意い考こうる所ところえの世せ活かつを紐ひも術じゆつの拾遺しゆい考こうふ  
奥おく庭にわの使し宜ぎを考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ  
十じゆ孫そんの先せん年ねん氏し弼しゆ同どう及くわく考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ  
考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ考こうる意い考こうる所ところ



乃重六子園東へ行くより ありて東海たり江平水は  
 近邊を為すとも氏御中も遊を毎向ふ事か里もあ  
 治方あき不角力をうく 仙居南村の方へは為り  
 救奉をより越後のそ南小末り 暫く家よりまうる  
 の隣小年をさむしより作て外へも出居内小終り 福  
 布を織糸うらふを事業と初て居たりるをいり者  
 そと有るま今所の溪の村ありし高玉の家 中松念  
 至水といふ人 身後て妻とあり 寧ろふらあり事逐  
 電といふ湯を身後て妻のゆりを侍ていり 俗に  
 ありて女あり果て奇物あり欠けありと感之たりて居

方々ある日秋津御城下の町をそありま 妻日小ゆき  
 不くと見えありき竹林も小入て見事大新らしき石碑小  
 筑前鈴木氏墓とありて大石をき 相の民神屋  
 ありて去ありしやゆえありて庫裏小入て 佐保小對面  
 子細を看すに重六佐保派を信して 民神が鏡磨小成て  
 来りしより二投川ありて反付小ありし 始終大内が追放  
 至水が放鳩者とありて肉通の如き左門がお梅小あり  
 甥が佐保もるる事 一く信りし事重六十歳大不備事  
 我江よりより奥の果まで居りてても遠ざるることを  
 ありてくさひし 八姉系に極我身流ありかゝる事ハ



きんぎょ

五水が  
あつを  
きし  
よき



秋津ぬ

おるまき小後梅こごめいさるともそかひあさもん左門さもんねお梅ねお  
上うへぐふごさるとあまふ我われものぢりてかぜ合あひをやく  
者もの左さ右みぎおままセカささんと左門さもん水みづ位ち示しをま後ご着ちやく不ふ  
立た之のりり縁ゆかり立たの用よう意いをあ隣りん家かのの小こ木き聖せい不ふ違ちがひひて  
主もん水みづ屋や今いま城じやう足あし流りゅう不ふ位ち居ゐのの一いっ用よう事じあまふふ彼か方かた  
集まりり中ちゆう之の傳でん云いままもも彼かををままととかかららままふふ小こ木き聖せい不ふ  
嬢ぢやうししとと怨うらみらら平へい主しゆ水みづ位ちののああ家かとと志しまますすれれがが傳でん云い  
ままでももああ何なにととおお情なさけ不ふ我われををつつままりりああとといいふふとといいふふ  
和わととままふふ十じゅう強きやうののあありり入い我われととままのの縁ゆかり不ふ女によをを連つてて不ふ  
志しああののままももそそままのの心こころ意いももとといいふふとといいふふとといいふふ

傳でんひひ集まるる見みととくく支し友ゆう百ひゃくととよよとと妾めかけ宅たくをを免まぬるる付つ  
小こ木き聖せいををつつままてて秋あきののまま上うへとといいふふとといいふふとといいふふ  
本ほん房ぼう後ご十じゅう日にちああままりりのの目め救きうをを行ゆつつ後ごのの町まち不ふ意いをを免まぬ  
時とき節せつ一いっ按あん摩まとと忍にんのの日にち不ふ意いをを免まぬとといいふふとといいふふ  
何なにももああららずずとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ  
あありりとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ  
よりより来きててとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ  
主しゆ水みづ位ち不ふ對たい面めん鏡きやうとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ  
我われとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ  
あありり竹たけ村むらのの位ち示しとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

小本堂おしああの人ら水取小あしきうろく小新  
仕あああしひひまき然しくんは子あああし  
遠周より集りし老と志ひああ曲もあしあ  
水取く遠しりまきよとカキ云いや座真小あし  
佛りあま我誠のま水くまは獲ら夫あああ  
小本堂まの面神足志きしし子新はしくおあ  
小本堂あああおあし我まま水取と子あ之は武  
士と色白く家申一番の俊男まあ何とや坊るああ  
の赤茶純眉をも顔も口も唇狐狸の化そとあし  
出むさんせとおまひま六十歳も今鳥仍まおあし

船よりなるまあ二人の神を足てよあしこの色を飛  
まうし〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
深のうりし一舟り佛りあせん我友に及しカ合せ大内が  
伝をせえ江戸あり伝坊のほ小舟り下合合て付傳り  
小あしはしといふ老とあまの疑あり内通のりあし  
付くうりし道ま出山中小ああむ内燈小音ま後ま切  
被あままきまも毒ま小あうりかどのとく深まあま  
かりしこそ幸あれと傳りあああハアを大内へあ  
客をせえん後と地燈をま〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
相りと傳あう〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

十一  
十一  
十一

跡ありあやうき正親よお命の所がふれことうきり生  
たとお姿のあつとも二世と知り我ま必死に於あき  
標うしく入ん身も水も安堵の心しをわし己あふ  
あふぬ公あふはそちあもねむ子細あり大内門人伏糸  
あふありて持本町河内屋といふ揚屋ふあり托真あり  
身度くあふ六仲居て成てかこふ入ぬ敵の家をせま  
せまふ一我大内方方入ぬ内介とも小弘さんと係を打  
年六秋津徳も大内いさこ我ハ是より甥少助左門ああ  
小か何のあを後一かさん徳事ハ後より山半面あて  
いあふさうといふあを告塚をさうて出たる

大内任者托真 阿梅討三郎玄清  
かくく素山外郎大内が淀の町任を着く心い眞  
ある兄四郎左方一物をせ一不武造を好め事  
ゆき附のむ後換り近く彼地ハ越き用えあ  
生六五水六日く小藤原小入屋家後の始程を年一  
裸く告あせぬ事左門に深ふあつて對面し家  
あつて用ああしむく事く小使しと手配お後不及  
さき大内通く眞方以出さあ事上方の金波とく  
あふ河内屋大内あふり芝居あふんあふ一  
救日托真一日天氣快晴あふ六天王あふり信吉不

海士の風系をえんきとて遠く出海老屋とて茶屋の  
 掛違ふは酒宴を催したるは自秋津徳十差も位者あり  
 は茶屋おひり酒の居りしは曾田が大勢連をてある  
 を見るあり陸子等そ切あつた種をて如子を何いなる  
 大肉が業がくとも志を酒のくまそ又例の細形の時と  
 あり種がよきまる彼わききとゆ法ありなるよまうまの  
 いちくは種埋の淺小細形者ありて種古あり小い人  
 出まき種かくく近て遠人のありありとカキ大肉安ん  
 今不くは細形の指刺する者ありありありまもさうその  
 百もありを者の名何と市やと名もさうまをてト典

流給本民弥と申する表札を打つるとはあり大肉大不  
 不審一は本民弥へ我討て捨て置るべし世もみん種あり  
 色しや浅井左門がく名のものもあや但一は名あり  
 余人ありや何おもせよ民弥と申すは捨て置るべし  
 是より種埋一は命を流行て見種あるへしとカキ大肉  
 二命を流行一は色しを者か左門ありへし地の子並小  
 大不ろりたり余人をささるへしと辞退ありたる小いやく  
 左門が面種見知りたる者か介少あり是退とも海をりて  
 よそをありしる見種あるへし一は我大坂の種者不取らん種あり  
 未だしと門ありしは大肉大坂城のくは二命を流行は是也

向く先づ大事我身やもかゝるる事なきべしとてあつて  
堀をさして出むけを秋津橋に足隠すは依ふつていざ  
かつりたるこゝ即ち清の橋をたてありたる小早黄實のほの  
くさきふのそれあつては終末民弥といふ表れあはせし  
門より民弥屋は是れ名と名をいふ内よりお梅をいふ  
他は致せしぐ何ゆゑやと問ふに即ち清の橋をたてし  
依ひ内ふ入て我身あつて角より角より民弥屋は  
元来いづくの出生かといふはより高下の所住居をいふ  
内室やと名をいふ表よりそより細くお梅をいふ  
とまゝと遠入る秋津橋はぬ六番田之節を清我といふ

あふといふもそは終末民弥といふ角かとの秋津橋は  
とていづくの出生かといふはより高下の所住居をいふ  
内室やと名をいふ表よりそより細くお梅をいふ  
とまゝと遠入る秋津橋はぬ六番田之節を清我といふ  
ども及よと別事一内ふよくも返り付ふ所なるお梅の  
再り終末民弥といふ名に依りて我身あつての茶屋を  
お梅をいふ終末民弥といふ名に依りて我身あつての  
終末民弥といふ名に依りて我身あつての茶屋をいふ  
と遠出るとも表に立るとは浅井左門をいふをいふ  
とるあは及びを官をいふが表に立るとは浅井左門をいふ  
奥言は越へる時お梅と名をいふ入る水をいふ  
とていづくの出生かといふはより高下



伯耆  
左大臣  
北具

伯耆



細柳を折く二ちりし合をせく延りて為さるを  
ち物も上達しきく故付の儀よりきちり付せて  
厘しとちりきく二帝を清の色遠くをハ又わいさか  
故付の儀も併のそと儀ありえより我々の初解申を  
付し場不しも合をむ氏孫を返り付の時ハ一向不  
まども故付のから合小道まねるあまび先を二不  
いさだよく務負致し付場ハ見道一トさきよと  
まし不儀なるを未練手ありとぬ人して進まわいさく  
務負しせあけきくお物ハ一務え出—其の故の行し  
立上りて務負せよとあまび先を二帝を清の色飛りあ

透きとる切分るをゆるてと儀ありきあり—がわら  
お合しかお後西六左門十義目を致さむ危く八脚人と  
ある小等かく進—く二帝を清志とふあるを付合  
ちんあ切例—そわをさしてさうらむ六左門大  
ほびでう—くそ手並あまび先をひあ—はう六  
お上へ番けをあ—近日儀付を長しとを和志—うらむ  
左門御泊 檀本町警討  
悪事をあな者一旦事をゆると—くも進小天付の  
厘しと大内平を度つ素山う世信少い—く奥  
越えんと没伏尼の門中商二月十一日伏尼檀本





迎ふに遊出さるやうに小間方を圍りあつてとどろき分て  
 ありける概そ日ふあま大肉平をたのび申云々又素山  
 外記を始り渡の門外に修るま都合十一人位の下船二千  
 人車上下二千余人船飯後より渡を出て伏見ふま  
 榎木町河内屋小入事六巻て約ころ大振振お世を子  
 牽頭約束の外まで呼込之廊中熱揚といふ人なるの  
 旅ひまゝ酒宴をとりあ客も振女もお混とて前後も  
 せむきさる左門にお梅重吉といざあひる水解津いぬも  
 榎木町小入也別事くは河内屋の近邊を伺ひけるが  
 宵の役人使算おきとて見え合せたるが初夜田も之限の





大穀うらひふきまむりかしく登りうの湯不研くを子をれ  
 ありともあまむねむとつきてこそく藤屋小入るもあ  
 度安へぬしあつまりう折を考へ小本屋八利り  
 うありふをてあし度安かりて花裁のうう手の塚の  
 切戸を望むふめりまむり安小左門水十巻多あひ  
 うかひ丹まむりひそくくと入ぬか折竹林ちの位係  
 より送りうる花釣籠の長紐をうらま左門ハ信國が折  
 うる二尺二寸二歩の刀をひらきげ大度安の志中小眠り危  
 なる大内が儀ふまより大音声よていふ小笹田官を中先年  
 流り付る給本勅解申が孫民強が折あ折牌に苗重吉

折あ折記史の仇浅井左門が助き力ある為小孫負せよ  
 と名乗るまむりひらきあ折官を更作天一あがう刀死  
 あげまむりまむりせしとけ声あ折心折力を接ぐ切  
 付るを志や折系ありと接合を是を石そ江弁栗山その  
 外の内中うらうらあうねきつまむり左門ふうらうらまむり  
 全多十巻是をまむり大折折手ふきうらひる河内屋の  
 家内へあひもあうらむら何事と折女を子件折折理  
 人泣きひいて迎まむりひ妻をさしてらひあ折折折  
 折折を系しまむり人を捨て迎出まむり廊の門役人あ  
 園あむり六折うらうらあむり田の小陽よかくまむり折



示時文化十四丁丑春阪

著書

浪卷

佐藤奥丸



畫圖

花洛

中邑長秀



京都

御幸町錦小路上

吉野屋仁兵衛

同

四條寺町西ノ入

吉野屋勘兵衛

江戸

四日市

松本平助

大坂

西横堀船町

天満屋源治郎

同

心齋橋南五丁目

大津屋治郎右衛門

同

北堀江市場

綿屋喜兵衛

同

鱧谷井池東

本屋清七

同

心齋橋博労町

天満屋安兵衛



